
大腸がん検診

大腸がん検診（便潜血反応検査）の実施成績

東京都予防医学協会検査研究センター

2008年度の大腸がん検診の実施概況

東京都予防医学協会（以下「本会」）の大腸がん検診は、抗ヒトヘモグロビン・マウスモノクロナール抗体を利用した金コロイド凝集反応により、便中のヘモグロビンの有無を測定するIGオートHem法（免疫比色法）を用いた便潜血反応検査により行っている。採便回数は、検査委託団体、健康保険組合との契約により、1回法または2回法で行っている。

表1は、2008（平成20）年度の大腸がん検診の男女別、年齢別による総合判定結果を示した。

職域健診における総受診者数は、男性23,666人、

女性12,005人の計35,671人であった。受診者数は男女ともに40～49歳が最も多く、次いで50～59歳が多かった。要精密検査対象者数は、男性では50～59歳が最も多く、次いで40～49歳が多かった。女性では40～49歳が最も多く、次いで50～59歳が多かった。

地域健診における総受診者数は、男性732人、女性1,532人の計2,264人であった。受診者数は男女ともに40～49歳が最も多く、次いで60～69歳が多かった。要精密検査対象者数は、男性では70～79歳が最も多く、次いで40～49歳と60～69歳が同数で多かった。女性では60～69歳が最も多く、次いで40～49歳が

表1 大腸がん検診集計

		(2008年度)																	
総合判定		男								女								総計	
		～29歳	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～	計	～29歳	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～	計		
職域	異常なし	433	3,349	7,690	6,422	3,534	618	92	22,138	336	2,084	4,010	3,213	1,346	312	48	11,349	33,487	
	要観察			2	5	17	15	4	2	45		2	1	4	2	1	2	12	57
	要治療継続			3	7	7	5			22	1		2					3	25
	要精密検査	19	174	377	469	284	62	16	1,401	20	103	187	149	79	18	5	561	1,962	
	要再検査	2	8	20	12	8			50	6	23	36	10	1			76	126	
判定保留			2	6	2			10		1	1	1	1				4	14	
合計	454	3,538	8,105	6,929	3,846	684	110	23,666	364	2,213	4,237	3,377	1,428	331	55	12,005	35,671		
地域	異常なし		58	184	119	177	118	21	677		106	445	282	411	171	10	1,425	2,102	
	要精密検査		4	11	8	11	14	6	54		8	26	17	29	22	4	106	160	
	判定保留					1			1			1					1	2	
	合計		62	195	127	189	132	27	732		114	472	299	440	193	14	1,532	2,264	
人間ドック	異常なし	12	1,135	1,416	1,107	509	58	14	4,251	12	457	577	470	203	23	3	1,745	5,996	
	要観察		1	4	3	3	3		14		1		1				2	16	
	要治療継続		1	1	1	2			5			1					1	6	
	要精密検査	1	47	82	82	34	8	1	255		24	29	27	12	1		93	348	
	要再検査										3	7	1				11	11	
合計	13	1,184	1,503	1,193	548	69	15	4,525	12	485	614	498	216	24	3	1,852	6,377		
総計	467	4,784	9,803	8,249	4,583	885	152	28,923	376	2,812	5,323	4,174	2,084	548	72	15,389	44,312		

要観察…腸疾患あり、主治医の支持に従って経過を観察してください。
 要治療継続…腸疾患あり、主治医の指示に従って治療を継続してください。
 要再検査…生理による影響など診断を確かめるため、再度検査を受けてください。

多かった。

人間ドック健診における総受診者数は、男性4,525人、女性1,852人の計6,377人であった。受診者数は職域健診同様、男女ともに40～49歳が多く、次いで50～59歳が多かった。要精密検査対象者数は、男性では40～49歳と50～59歳が同数で最も多く、次いで30～39歳が多かった。女性では40～49歳が最も多く、次いで50～59歳が多かった。

全体的に男女ともに若干ではあるが、受診者数が増加した。

表2は、便潜血反応検査における年度別、陽性率および大腸がん発見数を示した。2004年度から2008年度の陽性率は4.9～6.5%、平均陽性率は5.9%であった。2008年度において、総受診者数43,312人のうち、陽性者数2,606人で陽性率5.9%であった。2005年度以降は6%台であり変化がみられなかった。

便潜血反応検査陽性者に対する追跡率をみると、前年度の5.8%から20.7%となり大幅に増加した。これは2008年度の6月より従来のシステムに新システムを追加した結果と思われる。本会では、便潜血反応検査陽性者に、11施設の提携先医療機関を紹介し、精密検査の受診結果を受け取るシステムを導入していたが、2008年度より要精検受診対象者に対し、提携先医療機関の紹介に加え「大腸がん追跡調査のお願い」を同封することになった。これにより、提携先医療機関以外の医療機関で精密検査を受診された方の結果も、より多く把握することが可能となっ

表2 便潜血反応検査における年度別陽性率および大腸がん発見数

年 度	(2004～2008年度)					
	便 潜 血 反 応 検 査			結 果 報 告 書		
	実施人数	陽性数	陽性率 (%)	追跡可能数	追跡率 (%)	がん発見数
2004	42,373	2,074	4.9	139	6.7	7
2005	42,832	2,768	6.5	182	6.6	3
2006	40,660	2,552	6.3	166	6.5	8
2007	43,436	2,669	6.1	154	5.8	5
2008	44,312	2,606	5.9	540	20.7	10

注 追跡率；追跡可能数/陽性数×100

た。しかし、追跡可能数が増え、がん発見数も増えたが依然として追跡率は低い状況にある。今回がん発見数は、あくまでも参考値として掲載した。

表3は、2004年度から2008年度までの5年間に本会より提携先の医療機関へ紹介し、精密検査を受診した人の検査結果を診断結果別にまとめたものである。大腸がんを除いて大腸ポリープが最も多く、そのほかの診断結果では、次いで痔核、大腸憩室症、炎症性疾患の順であった。またその他には、黒皮症、胃炎、粘膜出血、粘膜逸脱症、粘膜下膿腫、メラノーマ、脂肪腫などが報告されている。

今回、大腸がん検診の追跡システムに新システムを追加したことにより追跡可能数が増え、追跡率が上昇した。しかしながら、依然として追跡率は20%台にとどまり、未把握部分が多いところが現状である。今後も要精検受診者に対し、大腸がん検診精密検査を積極的に受診勧奨し、精検未受診者を少しでも減らすとともに、さらに追跡率の向上のために、より一層努力していきたい。

(文責 森 郁子)

表3 便潜血反応検査における陽性者の精密検査診断結果

年 度	性 別	(2004～2008年度)											計
		大 腸 がん	大 腸 ポリープ	カ ル チ ノ イ ド	大 腸 粘 膜 下 膿 腫	大 腸 憩 室 症	炎 症 性 疾 患	大 腸 憩 室 症 痔 核	異 常 性	其 他	不 明	計	
2004	男	6	42		2	6	2	4	36	2		100	
	女	1	17				3	4	12		2	39	
2005	男	2	76			9	4	10	36	1		138	
	女	1	18	1			2	2	20			44	
2006	男	7	67			3	4	2	42	2		127	
	女	1	13				2	1	22			39	
2007	男	5	57			8	2	1	34			110	
	女		17			2	1		23	1		44	
2008	男	8	214		1	22	20	1	25	5	1	392	
	女	2	52		1	6	5	2	20	3		148	
計		33	573	1	4	56	45	4	377	14	3	1,181	